

## 展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

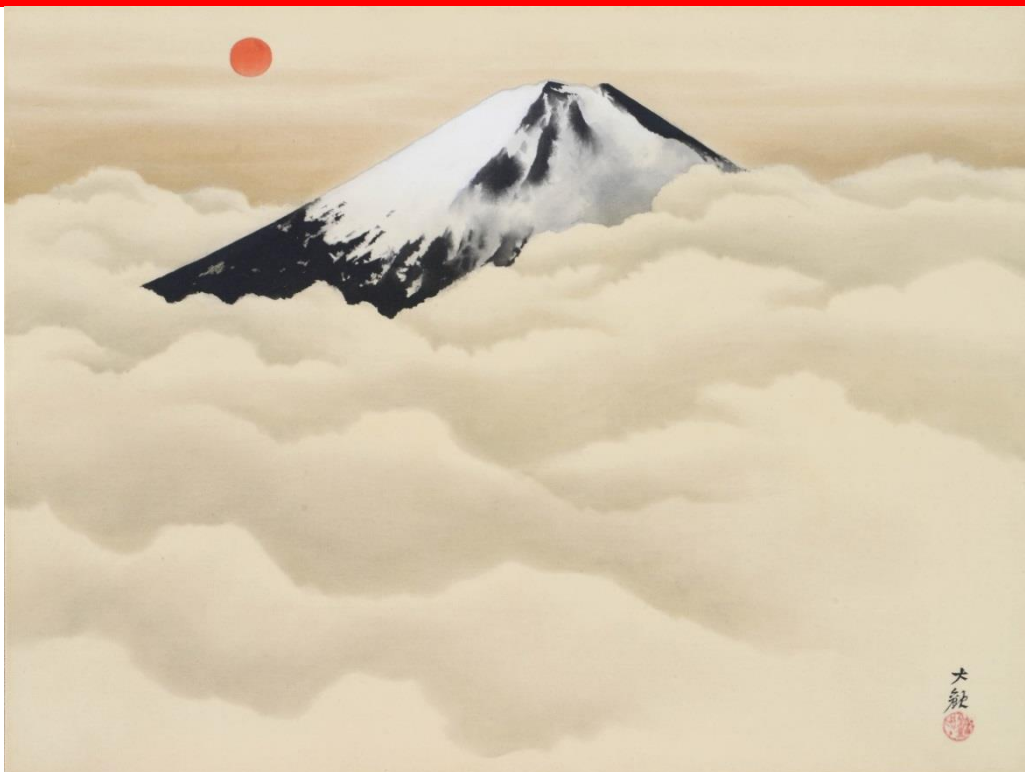
古川美術館において、この度、古川美術館ではCollector's exhibitionとしてアートコレクターが収集した秘蔵の一品を紹介する展覧会を開催します。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

### 新しい時代の幕開け

### 語り継がれる日本の巨匠ここに集結!!

3月16日(土)～5月6日(月・振休)



(図1)横山大観「日本正気」1941年 個人蔵

# 日本の巨匠

古川美術館 特別展Collector's exhibition

会場  
開館時間  
休館日  
主催  
後援

**古川美術館**

10時～17時（最終受付16時半）

月曜日 但し最終日は開館

公益財団法人 古川知足会

愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会 中日新聞社、  
スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社

## 明治の幕開け 文明開化を支えた美術界のレジェンド

美術の愛好家たちが選び、プライベート空間で愛でてきた珠玉の美術品を【次世代に残したい30人】に厳選して紹介。国全体が大きく変貌を遂げた時代、明治の幕開けと共に島国日本は長い鎖国から解き放たれ、他国の影響を受けながら文化を発展させてきました。その文化の主人公となったのが切磋琢磨して己の芸術を追究した芸術家たちです。近代日本画の礎を築きあげた横山大観、竹内栖鳳。山水画から風景画というジャンルを確立した川合玉堂。浮世絵から美人画という花形絵画を樹立した鏑木清方、上村松園。洋画では、油絵具の質感にもがき苦しみながら日本の洋画を作り出した梅原龍三郎、欧州芸術家に衝撃を与えたレオナルド・フジタなど。日本のアートシーンはこうした芸術家たちによって支えられてきました。平成から改元する今だからこそ、後世に残したい30人の画家をとりあげ、激動の美術界を支えた巨匠たちの個の輝きを紹介します。

### 文化勲章受章作家が勢揃い！！

文化勲章は、科学技術や芸術などの文化の発展や向上にめざましい功績のある者に授与される日本の勲章。1937年、昭和12年より設けられた章で第一回目の受賞者は近代日本画の父・横山大観と竹内栖鳳の両雄でした。また、上村松園は女性初の受賞者になります。本展にて展覧する30名のうち、24名は受章しています。

#### 【文化勲章受章者】

横山大観	1937年受章	林 武	1967年受章
竹内栖鳳	1937年受章	東山魁夷	1969年受章
川合玉堂	1940年受章	杉山 寧	1974年受章
和田英作	1943年受章	中川一政	1975年受章
安田靫彦	1948年受章	小倉遊亀	1980年受章
上村松園	1948年受章	山口華楊	1981年受章
梅原龍三郎	1952年受章	高山辰雄	1982年受章
安井曾太郎	1952年受章	牛島憲之	1983年受章
鏑木清方	1954年受章	小磯良平	1983年受章
前田青邨	1955年受章	奥田元宋	1984年受章
川端龍子	1959年受章	荻須高德	1986年受章



(図2)竹内栖鳳「富嶽」古川美術館蔵

## テーマ1 —対決—

近代日本画の父として東西を二分した横山大観と竹内栖鳳。大観らの近代化の動きを未来に繋げた前田青邨と安田鞠彦など同時代に活躍し、時には並び称されてきた芸術家を比較して紹介。

### —ここがポイント!!—

画家によって異なる筆線や芸術的思想から見てくる作家の個性を堪能。

#### 【出品作家】

横山大観VS竹内栖鳳  
前田青邨VS安田鞠彦  
上村松園VS鍋木清方  
梅原龍三郎VS安井曾太郎



(図1)横山大観「日本正気」個人蔵



(図2)竹内栖鳳「富嶽」古川美術館蔵



(図3)安井曾太郎「静物」個人蔵

## テーマ2 —日本の五山—

横山大観、竹内栖鳳から受け継いだ近代化の波は前田青邨らを経て、近代日本画として定着し、さらに新しい日本画として発展することとなる。そうした時代の立役者たちが日本の五山と呼ばれる画家たちである。ここでは彼らの成功を彼らが生きた時代と共に紹介していく。

#### 【日本の五山】

東山魁夷「月唱」「渚の白馬」  
杉山寧「條」  
加山又造「猫」  
平山郁夫「唐招提寺の夜」  
高山辰雄「牡丹朝陽」

### —ここがポイント!!—

五山の画家たちが一望でき、さらにいずれの画家も画業の中で重要な作品を紹介。

## テーマ3 —パリへ—

明治以降、日本では日本画と洋画のジャンルが新しい時代を築き上げてきた。特に日本に入ってきた真新しい素材であった油絵具は洋画家たちを魅了し、彼らはいつしかその発展のため芸術の都パリへと思いを馳せ、渡欧する。ここではパリに渡り成功をおさめた画家を紹介。

#### 【パリへ渡った画家】

和田英作「薔薇」  
梅原龍三郎「巴里風景」  
レオナルド・フジタ「婦人像」  
小磯良平「バレリーナ」  
荻須高德「文具や」



(図4)和田英作「薔薇」古川美術館蔵

## テーマ4 —個性—

次世代へ繋ぐべく個性輝く作家の作品から作家の苦悩と成功のプロフィールを紹介。

#### 【出品作家】

川合玉堂	川端龍子	小倉遊亀
伊東深水	東山魁夷	梅原龍三郎
レオナルド・フジタ	中村 彝	中川一政
林武	三岸節子	宮本三郎
杉本健吉	牛島憲之	奥田元宋



(図5)川合玉堂「田子浦」古川美術館蔵



(図6)川端龍子「長春花」古川美術館蔵

※ご希望の方はご連絡ください

◆古川美術館

担当学芸員：林 奈美恵

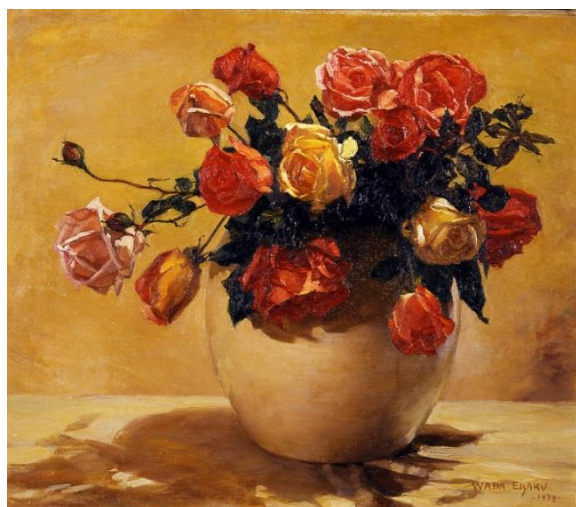
電話：052-763-1991

mail : n\_hayashi@furukawa-museum.or.jp

## 広報使用画像



① 横山大観「日本正気」1941年個人蔵



② 和田英作「薔薇」古川美術館蔵



③ 安井曾太郎「静物」個人蔵



④ 川端龍子「長春花」古川美術館蔵

展覧会名称

古川美術館 特別展Collector's exhibition

## 「日本の巨匠」

会 場

古川美術館

会 期

2019年3月16日（土）～5月6日（月・振休）

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）

入館料

一般1,000円 高大生500円 小中生300円

主催

公益財団法人 古川知足会

後援

愛知県教育委員会 名古屋教育委員会、中日新聞社、スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

協力

Beyond2020、あいちトリエンナーレ2019パートナーシップ事業

### 【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課直通)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n\_hayashi@furukawa-museum.or.jp)

広報担当 学芸課 山内綾子 (a\_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)

## ～ギャラリートーク～

日時 | 3月16日(土)、4月3日(水)、4月14日(日)、各日14時～  
参加費 | 無料(入館券必要)  
会場 | 古川美術館 展示室

## 美術講座～巨匠列伝～時代を切り開いた画家たち

要予約

時代を切り開いた画家の画業を日本画と洋画に分けてご紹介

日時 | 洋画編 4月11日(木)  
日本画編 4月20日(土) 各日14:00～15:30(予定)  
定員 | 30名  
参加費 | 無料(入館券必要)  
会場 | 古川美術館 3階会議室  
申込み | 電話、フロントにて受付

## 実業家のお屋敷巡り

株式会社 松坂屋の初代社長である15代伊藤次郎左衛門祐民の別荘である楊輝荘と、古川美術館初代館長古川爲三郎の邸宅である爲三郎記念館を巡って、春を満喫しませんか？スタンプを集めた方には各館で素敵なプレゼントをご用意しております。詳しくは別刷チラシをご参照ください。

日時 | 3月16日(土)～5月6日(月・振休)  
参加費 | 無料(入館券必要)  
会場 | 古川美術館 3階会議室  
申込み | 電話、フロントにて受付

### 爲三郎記念館臨時休館のお知らせ

4月24日(水)より爲三郎記念館(古川美術館分館)にて檜舞台を設営した特別イベントを開催いたしますので、以下の日程で爲三郎記念館のみ臨時休館いたします。ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 臨時休館

4月26日(金)・4月27日(日)・5月19日(日)・・・13:00～休館  
4月28日(日)・5月3日(金祝)・5月4日(土祝)・・・終日休館